

図書館サービス計画 企画立案の基本的視点

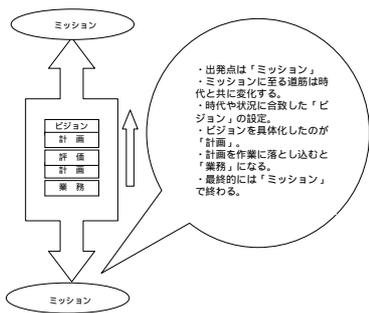
三村敦美(座間市立図書館)



図書館サービス計画



ミッション(使命)に始まりミッションに終わる流れの把握



3

目的・目標を扱う三つのポイント

- 1. 計画の目的・目標を明確にする
 - 人は目標を求める傾向がある
 - 目的意識が実現への第一歩 『め組の大吾』 『スライド10』参照
 - 目標は単純・明快かつ具体的に 例えば「国民所得倍増計画」のように
- 2. 目的・目標と手段を取り違えない
 - 例えば社会保険庁 「国民の福祉」 「組織の充実に維持」
- 3. 目標に期限を設定する
 - 「10年で国民所得を倍にする」(国民所得倍増計画)



加藤昭吉著『計画力、を強くする』講談社(ブルーバックス) 2007.5 p67-81をもとに作成

4

サービス計画の必要性(1)

1. 社会状況の変化

1) 地球規模の変化

- ・「自己判断自己責任」の時代
これ自体に批判はありますが…
- ・自己判断する時の材料、根拠が必要。
ここにも図書館の存在意義がある。

2) 市民の情報収集能力の向上

- ・インターネットの普及が主な原因。
- ・相対的に図書館員の優位性が崩れている。
- ・デジタルデバイドと公共図書館
公共図書館は貢献できるか。

5

サービス計画の必要性(2)

2. 行政の変化

- 1) 地方分権と財政問題
- 2) 行政評価の時代
- 3) 行政の情報化
- 4) 図書館自体の説明責任
- 5) 公的業務の公共事業化(旧来の公共事業が縮小傾向であるため、新たな形の公共事業が求められている) 図書館の委託、指定管理者制度へ

3. 図書館の変化

- 1) 図書館政策の変化
数値目標から計画実行型へ
- 2) 図書館基盤の脆弱化
・人の問題
・組織の問題

↓

経営主体をどう考えるか。
住民にとっては経営主体如何にかかわらず公共図書館である。
「よい図書館」を目指した競争の時代へ。

6

サービス計画の必要性(3)

4. 図書館の危機的状況

- 図書館経営の危機
 - 「指定管理者制度」の広がり
 - 国、自治体の方針
 - <委託問題の背景>
 - 中央官庁
 - 「新自由主義的構造改革」(1997年12月「行政改革会議最終報告」)
 - 行政のスリム化と行政の市場開放を特徴とする改革
 - 地方
 - 「三位一体改革」 福祉・教育・社会保障機能の地方移管
- 「地方財政の改革において「補助金の削減・地方交付税の改革・税源の移譲」を同時に進めようとする考え方、地方財政のスリム化と地方自治体の裁量権拡大を、同時にめざすもの。」
- コスト削減圧力

7

サービス計画の必要性(4)

5. 危機的状況への対応策

- 意識的な活動や改革を行っていく
- 計画的な運営を行い、それを広くPRする
 - 住民を味方に、パートナーにしてい
- 業界として、図書館の望ましい姿の構築とPRを行う
 - 日本図書館協会への結集
 - 改革の意思と仲間づくり

6. 究極の目的は「思い」を伝えること

『め組の大吾』にある言葉 「スライド10」参照

8

これがスイミー状態です



レオ・レオニ「スイミー」(好学社 1969)より

9

『め組の大吾』の言葉

人間は成長していくにつれ、いろんな現実を思い知らされる・・・。
 「う～ん、現実意外と理想通りには進まないぞ。
 そして・・・
 「もしかしたら自分の夢はかなわないかも」
 「そうはなれないかも」と思う。
 そう思った人間から本当に、そうなれなくなっていくんだよ・・・。
 “自分はそうなれる”と信じているうちは、どんなことだって“可能性”
 だけは常に残されている。



(『め組の大吾 20』(曾田正人著 小学館 1999 p158-159)

10

計画立案のための5つのポイント

- 1. 想像力を働かせて構想する
 - 図や絵の活用 発想法の項参照
- 2. 正しい計画のステップを踏んで立案する
 - 情報の収集
 - 正しい状況判断
- 3. 複数の計画を練る
 - 選択肢を増やす
 - リスク分散
- 4. 計画案を正しく評価する
- 5. 不確かさのリスクをできるだけ回避する
 - 三点見積り(楽観値 最可能値 悲観値)

<評価の落とし穴>
 リスクを過小評価する
 過去の実績を過大評価する
 “当面の問題”を過大評価する
 プラス面を過大評価する
 マイナス面を過度に恐れる
 不確実なことを嫌う

加藤昭吉著「計画力」を強くする。講談社(ブルーバックス) 2007.5 p84～130をもとに作成

11

計画に必要な要素

- 成果の見直し
- ニーズの検討
- 優先事項と短期的目標の確認
- 諸目標を達成するための種々の戦略の展開
- 成功するための重要な諸要因の確認
- 予算の配分
- 最大限の活動実績を達成するための諸資源の配置
- インプットとアウトプットの結果の測定と評価
- 情報ニーズと基本方針の再評価



『理想の公共図書館サービスのために』日本図書館協会 2003 p をもとに作成

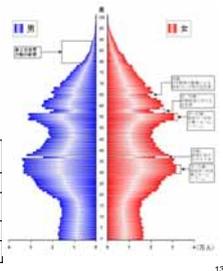
12

「サービス計画」策定の手順(1)

1. 自治体と地域の分析

- 1) 自治体の地理的特徴、歴史的特徴
- 2) 自治体の基本構想、長期計画、実施計画などの調査・分析
- 3) 地域の現状分析
 - ・人口構成
 - ・産業構造
 - ・財政状況
 - ・文化、教育、情報などの特徴
 - ・教育・文化に関する住民の意識

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
1) 自治体の産業就業人口構造	%	%	%
2) 当該都道府県の産業就業人口構造	%	%	%
3) 近隣自治体の産業就業人口構造	%	%	%
4) 全国の産業就業人口構造	%	%	%



13

「サービス計画」策定の手順(2)

2. 図書館の現状分析・評価

- 1) 統計分析
 - ・各種指標の活用
 - ・同規模自治体との比較
 - ・経年変化(過去10年間程度)の分析
- 2) 利用者調査
- 3) 市民アンケート調査
- 4) 利用者満足度調査
- 5) サービス品質調査



14

類似自治体との比較

例: 座間市と浦安市を比較する

1) 比較表

	座間市	浦安市
人口	127千人	150千人
正規職員数	12人	37人
内 有資格者数	5人	37人
非常勤職員数	3人	46人
総職員数	21人	83人
蔵書数	363千冊	1,019千冊
雑誌数	267タイトル	615タイトル
貸出件数	944千点	1,856千点
予約件数	103.9千件	186.5千件
図書館費(2006年度)	85,992千円	332,659千円
内 資料費	27,179千円	122,601千円
内 図書費	20,000千円	98,908千円

人口規模がほぼ同じ自治体、あるいは産業構造も類似している自治体で、当該自治体より図書館サービスレベルが高いと思われるところを選びます。



15

「サービス計画」策定の手順(3)

3. 基本的事項の確認

- 1) 理念、法律、規定、国の施策などの確認
- 2) 先進事例、典型事例の採択
 - ・インターネットの活用
 - ・報告書、全国図書館大会などの情報収集
- 3) 最新の研究動向調査
 - ・研究団体への加入
 - ・雑誌の活用
 - 「図書館雑誌」「現代の図書館」「図書館界」「日本図書館情報学会誌」「みんなの図書館、など
- 4) 館内での共通理解
 - ・ミッションや自館のビジョンを共有する
 - ・リーダーシップの重要性

16

「サービス計画」策定の手順(4)

4. ミッションとビジョンの確認

5. 課題と課題解決の方策

- 1) 比較や自館の位置づけから課題を探る
- 2) 課題の問題点を具体的に列挙する
- 3) 問題点の解決方法を考える
- 4) 優先順位や条件により時間軸上に配置する

1. ミッション
当該図書館の使命(ミッション)を記入します。ここに記入するのは、策定するサービス計画に関するものです。(例えば児童サービスに関するサービス計画を策定する場合には、児童サービスに関する使命を記入します。)

2. ビジョン
ビジョン欄には、策定するサービス計画に関して10年くらいで実現したい内容を記入します。

図書館サービス計画(策定手順 課題と課題解決の方策編)

項目	サービスの現状	サービスの課題と問題点	課題解決の方策

17

「課題と課題解決の方策」の記入例

項目	サービスの現状	サービスの課題と問題点	課題解決の方策
おはなし会	月一回実施、幼年向けのみ、職員1名で行っている。	問題点としては、多くの図書館が週一回程度おはなし会を実施しているのに対し、月一回は少ない、幼年向けのみ実施され、小学生向けが行われていない。職員1名では内容的な広がりにつける、課題は週一回実施するだけの職員がいない。また、小学生向けに行うためのスキルが職員側になし。	週一回実施を目指す。内容は幼年向けと小学生向けとする。そのためには、おはなしボランティア養成のために専任講座を実施する。専任のスキルアップのために、日本図書館協会が行う児童図書館員養成講座に毎年1名ずつ派遣する。また、県立図書館が実施する研修にも職員を派遣する。

記入例

項目は、一括りに出来る程度の内容で記述します。
例えば、児童サービスの計画であれば、「おはなし会」「行事」「出版」「留体貸出」「PR」「職員研修」等の項目が考えられます。

ここでは「項目」に対しての現状のサービス内容を記述します。
例えば「おはなし会」という項目では、「月一回実施、幼年向けのみ、職員1名で行っている」といった内容になります。

「サービスの現状」に対しての課題や問題点を記入します。
これは現状に対する評価となる部分です。ミッションやビジョンに基づいて現状をどう判断するかがグループで十分話し合ってください。

これは今の項目で出された「課題」や「問題点」に対してどのような方向で解決していくのかが内容で記述します。
この部分に書かれたことが、最終として年次計画の項目になります。

18

「サービス計画」策定の手順(5)

6. 年次計画

- 1) 「課題と課題解決の方策」の方策を年次に落とし込む。
- 2) 即実行可能なものは1年次から、実行に時間がかかるものは準備期間も考慮して落とし込む。

図書館サービス計画(策定手順 年次計画編)

項目	事業	指標	初年度		2年度		3年度		4年度		5年度		備考
			内容	経費									

19

「年次計画」の記入例

記入例			初年度		2年度		3年度		4年度		5年度		備考
項目	事業	指標	内容	経費	内容	経費	内容	経費	内容	経費	内容	経費	
おはなし会	職員のスキルアップ(県立の研修へ派遣)	職員13名中3人の専門研修を行なう	旅費2,500円*1人	2500円			旅費2,500円*1人	2500円			旅費2,500円*1人	2500円	一年おきに派遣

「策定手順」と課題解決の方策論の項目が、この項目になります。

「課題解決の方策」に書かれたものを、具体的事業としてここに記入します。

各事業の概要、あるいは目標の数値、状態や指標を記入します。

各事業に関する内容と計額を記入します。

年度ごとの計算でできるよ、数値のみ記入します。

その項目の補足説明を入れます。

20

公立図書館の理念、目標、基準など

- 1) 「子どもの読書活動推進に関する法律」(2001.12)
「子どもの読書活動推進に関する基本計画」(2002.8)
- 2) 「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成13年<2001年>7月告示)
- 3) 「2005年の図書館像 地域電子図書館の実現に向けて」(報告)。(2000.12)
- 4) 「公立図書館の任務と目標 解説 増補修訂版」(日本図書館協会 2000.12)
数値目標が付録として巻末に収録されている。
- 5) 「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について(答申)」(2000.11)
- 6) 「これからの図書館像 - 地域を支える情報拠点をめざして - (「これからの図書館の在り方」検討協力者会議; 報告書)。(2006.4.5)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06040513.htm

21

地域の現状分析(1)



- 「民力」(朝日新聞社)
 - 40年の歴史を誇り、マーケティング・販売・行政実務に絶大の信頼度を誇る地域データベース。24の基本指標と独自の「エリア」概念を導入し地域単位の指標を掲載している。
- 「地域経済総覧」(東洋経済新報社)
 - 1971年の創刊以来、自治体別の経済・社会データを幅広く収録。豊富なデータを収録した地域統計集として知られる。
- 「全国市町村要覧」(第一法規)
 - 全国の市区町村別人口、世帯数、面積、人口密度、高齢者人口、産業別就業人口、国勢調査人口及び増減の状況、事務所的位置、市区町村長名、市区町村議会議長名、合併及び境界変更等の状況等について、最新のデータに基づき収録するとともに、市区町村の変遷と現況を把握できる資料として編集している。

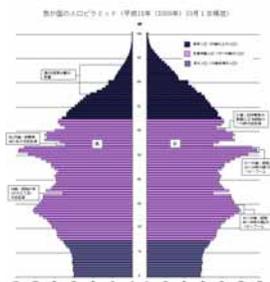
22

地域の現状分析(2)

- 総務省統計局
 - <http://www.stat.go.jp/>
- 統計データポータルサイトから検索
 - <http://portal.stat.go.jp/>



我が国の国土、人口、経済、社会、文化などの広範な分野にわたる基本的な統計データを、網羅的かつ体系的に収録。27の分類、約750の統計表及び約500の図表からなる。



23

発想しよう(1)

- ブレインストーミングの方法(カード・ブレインストーミング法)

<手順>

- ポストイットカード(大きいもの)を用意します。
- 各自、個人発想を行います。(5分程度)
- 順番に意見を発表します。
- 各自ポストイットカードに意見を書き込みます。この際、1意見1カードとします。
- 他の人の意見に対して質問や(批判や評価はしない)、自分のアイデアを追加します。
- 膠着状態になったら、再度個人発想の時間をとります。
- 再度意見発表します。
- ポストイットカードに意見を書き込みます。

1時間が限度。それまでこれを繰り返します。とにかく、脳を搾ってください。

24

発想しよう(2)

- ブレインストーミングの方法(カード・ブレインストーミング法)
<基本ルール>

- 判断延期**

意見に対する判断や批判、評価、意見を保留し、とにかくアイデアを搾り出すことに専念します。

- 自由奔放**

誰でも思いつくままに発想し、それに対して批判しないことにより、一層自由な雰囲気生まれます。この雰囲気を作り出すことが重要です。

- 量より量**

大量にアイデアを出すことが何より重要です。めっちゃめっちゃ意見であっても、そこから新たな発想を引き出す可能性もあるからです。

- 結合改善**

誰かが出した案に便乗してより面白いアイデアを出します。出されたアイデアは全員のものであり、またそこから新たな発想をずらすという乗り回りの良さや遊び心が重要です。

25

発想しよう(3)

- ブレインストーミングの方法(カード・ブレインストーミング法)
<収束方法>

- 収束技法として有名なKJ法を使ってブレインストーミングによって出された意見を収束させます。

- まずブレインストーミングで作成したカードを、類似したものをグループ化します。

- グループ化したものに、表札をつけます。

- 表札をつけたものをさらに類似性を見てグループ化します。

- いくつかの大きなグループを、コンセプトと段階を考えながら、空間配置をします。

- この配置をもとに文章化します。

26

発想しよう(4)

- ブレインストーミングの方法(カード・ブレインストーミング法)
<KJ法>

文化人類学者の川喜田二郎が開発した収束技法(アイデアをまとめるための技法)の一つで、開発者のインシャルから「KJ法」と名づけられました。もともと現地調査をまとめるために考案された技法で、収束技法として優れていること、カードとの相性が良いことから今回収束技法として採用しました。ただ、類似性を見てグループ化する時どうしても既成概念にとらわれた分類をしやすく、「新編創造力事典」では「誤りや我流のKJ法で固まると、かえって人を傷つけ組織を損なう場合もあろう。」と注意を促しています。自由な発想を妨げないよう気をつけて使ってください。

27

発想しよう(5)

- ブレインストーミングの方法(カード・ブレインストーミング法)

- <カード・ブレインストーミング法>**

- ブレインストーミングは1939年にアメリカのアレックス・F・オズボーンによって開発された。アイデア創出技法の一つで、自由連想法に属するものです。この技法は非常に有効だったために、その後開発された自由連想法の基本となりました。今回使ったカード・ブレインストーミング法は、オズボーンのブレインストーミングの欠点を是正し、またターゲットを扱いやすくするため(株)創造開発研究所の高橋誠所長が開発したもので、使い勝手のよさから多くの企業・団体・個人等の発想技法として使われています。



28

発想しよう(6)

- 図の活用

- マインドマップ**^(R)

- イギリスのトニー・ブザンによって開発された思考技術。概念の中心となるキーワードやイメージを図の中央に置き、そこから放射状にイメージを繋げていくことにより、発想を延ばしていく図解表現技法。絵や記号や色を使い、脳の活性化をはかる。

- 図解表現**

- 7-8年前から人気の図解技術の中心的な位置にいる久恒啓一氏のマニュアル本。図解表現に関しては多くの参考文献があるので、使いやすいものを。



29

サービス計画の立案の留意点

サービス計画の要点をまとめると...

- 1) 目的(ミッション)と目標(ビジョン)を明確にする。
- 2) 計画的、段階的な計画とし、具体的な到達点を明記する。
- 3) 重要性、緊急性、自館の資源(施設、人、金等)を勘案し優先順位をつける。
- 4) 費用対効果を常に意識し、厳しい財政事情の中で実現できる環境を考える。
- 5) 組織の活性化を図る。(研修、リーダーの養成、モチベーションの確保)
- 6) 計画推進の中心は司書である。(自覚とモチベーション)

30

計画はなぜ失敗するか(1)

- 計画立案段階での理由
 - 計画の目的・目標がはっきりしていない
 - 頭の中だけで組み立てた計画になっている
 - 状況判断を誤って計画している
 - 目先の問題解決を積み重ねただけの計画になっている
 - 複数の計画案から選び抜かれていない

加藤昭吉著「計画力」を強くする、講談社(ブルーバックス) 2007.5 p30をもとに作成

31

計画はなぜ失敗するか(2)

- 計画の実行段階での理由
 - 計画通り実行する熱意に欠けている。
 - 「熱意は周囲を変える力がある」
 - 計画実行の勘所をはずしている。
 - ‘終わり’からの逆算ができていない。
 - 「残り時間を意識する」
 - 計画の適切なフォローアップができていない。

加藤昭吉著「計画力」を強くする、講談社(ブルーバックス) 2007.5 p30をもとに作成

32

サービス計画の事例(1)

1. 『座間市立図書館サービス計画,1997年策定』
図書館で自主的に作成したサービス計画としては早い事例。現状分析と各種指標・基準を参考に10年間のサービス目標と数値目標を3段階(短期・中期・長期)で記述している。
2. 『鎌倉市図書館サービス計画,2000年4月策定』
座間市の例を参考に策定。案段階で市民に意見募集し、それを本計画に反映させた。
3. 『札幌市図書館ビジョン,2002年1月策定』
「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成13年7月告示)に基づいて作成された比較的早い例。課題ごとの考え方を示した上で、<短期的施策>を提示している。中・長期的な具体的な課題と数値目標がない。
4. 『小平市図書館サービス計画,2004年7月策定』
章立ては「はじめに」「基本方針」「サービス計画」「運営計画」「サービス指標の設定と自己評価」の5本となっている。先行するサービス計画を参考している点、各分館からもメンバーを集めたプロジェクトチームを結成しそこで検討している点、具体的な目標設定をしている点などが特徴である。

33

サービス計画の事例(2)

4. 『大坂府八尾市』
図書館や市民フォーラム、2001年6月～
「図書館サービス計画検討委員会、2002年9月」
- *****『八尾市図書館サービス計画』基本経緯(案)から抜粋*****
- ### 4 計画の目標
- 1) 目標の設定 市民からの充実した図書館サービスを求める要望の高まりと、八尾市の図書館の現状・問題点、将来のあるべき図書館像を踏まえ、本計画の目標を以下の通り設定します。
計画目標年次 平成16年度を初年度とし、平成22年度を計画目標年次とします。
計画的目標
・登録率の計画目標は、30%とする(平成14年度の登録率19%)
・蔵書数の計画目標は、100万点とする(平成14年度の蔵書数57万点)
・貸出点数の計画目標は、300万点とする(平成14年度の貸出点数210万点)
・図書館利用圏域(半径1.5km)が人口の80%以上をカバーする。
 - 2) 目標の設定と評価の公表 今後は、上記の目標の設定に基づいて図書館サービスの改善やサービスの創出、図書館施設の改善や新たな建設などを着実に推進していきますが、図書館においては、経緯についての情報を積極的に公開し、点検・評価を行い、市民に公開します。
さらに、サービスの数値目標を設定し、5年ごとに見直し、計画的にサービスの実現に努めます。(八尾市立図書館のホームページより<http://www.city.yanai.osaka.jp/information/koushukan/koushukan.htm>)
八尾市は平成16年1月「八尾市図書館サービス計画」を策定した。
- *****
5. 『まちの図書館化』を目標として - 21世紀広島市図書館計画の編成 - 2002年12月策定
学識経験者や市民代表による作成例。「ワクワク図書館」「ラクラク図書館」「ニコニコ図書館」「イキイキ図書館」というネーミングにも特徴。蔵書については数値目標がある。

34

神奈川県座間市

- 位置：神奈川県の中中部
- 人口：12万7千人
- 特色：豊富な地下水と湧水
米軍基地キャンプ座間

サービス計画の具体例として



35

サービスポイント

- 座間市立図書館
- 公民館図書室
- 座間市公民館図書室
- 東地区文化センター図書室
- 北地区文化センター図書室
- 移動図書館車「ひまわり号」
- 出張図書室「ウーフの部屋」



36

座間市立図書館の概要



- 開館 昭和58年4月
- 蔵書冊数 約37万冊
- 職員数13人(司書資格6名)
- 非常勤10名(司書資格4名)



	平成10年度	平成18年度
貸出冊数	706,515冊	945,716冊
予約件数	39,333件	113,394件
図書購入費	19,000千円	20,585千円
登録者数	78,376人	69,283人
蔵書数	284,085冊	308,294冊

37

座間市の図書館の位置づけ

5 図書館の組織

1. 教育委員会 事務局機構(平成16年4月1日)

教育委員会	教育総務部	
	総務課	庶務経理係 施設係
	学校教育課	学務係 学校保健係 学校指導室
	指導室	指導班
	教育研究所	
生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係 文化係 公民館
	青少年課	青少年係 青少年センター 青少年相談室
	スポーツ課	体育健康係 施設管理係
	図書館	庶務係 奉仕係 市民福祉係

38

「サービス計画」策定のきっかけ

● 策定の発端と経過

- 図書館協議会での委員の発言(1996年2月)

「座間市立図書館に目標はあるのですか？」



- 1996年8月「目標」の策定。図書館協議会で承認。
- 1997年2月「サービス計画」策定。図書館協議会で承認。

39

「サービス計画」策定の経過

- 図書館協議会での委員の発言(1996年2月)

「目標」素案作成 回覧 修正 回覧…………… 館内案作成



- 1996年8月「目標」の策定。図書館協議会で承認。

「サービス計画」素案作成 回覧 修正 回覧…………… 館内案作成

- 1997年2月「サービス計画」策定。図書館協議会で承認。

40

「座間市立図書館の目標」

資料提供

- (1)求められた資料には、必ず応える図書館
- (2)市民生活をサポートする図書館
- (3)情報を市民に伝える図書館
- (4)レクリエーションのための図書館

全域サービス

- (1)どこに住んでいる人も、だれにでも利用できる図書館
- (2)図書館利用に障害がある人に優しい図書館

児童サービス

- (1)子どもやヤングアダルトへのサービスを重視する図書館

市民とともに創る図書館

- (1)文化を大切に考える図書館
- (2)暖かさや安らぎ、そして自由と夢あふれる図書館
- (3)市民が自由に参画できる図書館
- (4)職員一人ひとりが、自立して働く図書館

1996年8月策定



41

「サービス計画」策定の事前作業

- 座間での手法

- 統計の分析
- 各種基準の調査
- 座間市の市民意識調査
- 雑誌の利用調査
- レファレンス記録の調査



42

今後の課題

- 「サービス計画」自体の問題
 - 「サービス計画」の検証
 - 「サービス計画」の改訂
- 実効性
 - 予想以上に進まない意識改革
 - 広めるための方法
 - 市民へのPR
 - 議会、市役所職員へのPR
 - 図書館協議会の活性化

49

「座間図書館ボランティア友の会」のこと(1)

- 「座間図書館ボランティア友の会」
 - 1. 1998年6月発足
 - 2. 主な活動内容
 - ワンスモアブックスフェア
 - 講演会
 - 見学会
 - 3. リサイクルについて
 - 「リサイクル実施要綱」の策定
 - 廃棄資料、寄贈資料の販売

50

自主事業の開催(無料リサイクルコーナー)



51

古本市の収益金で毎年図書館に本を寄贈



52

図書館活用講座の取り組み

始まりは・・・会員の声

図書館の本当の「実力」を知り、使いこなしているだろうか？活用法を知れば、今までよりもっと楽しく図書館で活動できるかもしれない。

図書館は大好きな場所、もっと楽しみながら使いたい。

いつも図書館に来てボランティアをしているが、図書館の使い方や利用法がよくわからない。

- 図書館活用講座とは何か？

図書館を活用した「学び方」を学ぶ講座

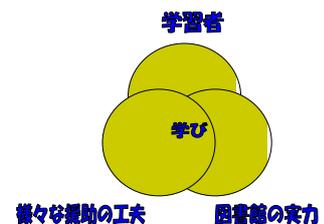
- 学びの方法

学習会
図書館クイズ

53

図書館で充実した生涯学習をはじめするために

- 主体的な学びを実現する3つの要素
- 図書館の実力とは
- テーマを決めて学ぶことの大切さ
- 学習を助ける援助者たち



54

他のボランティアの活動状況(1)



- 児童サービス(おはなし会などのサークル)
- 障害者サービス(対面朗読のボランティア)
- 視聴覚(座間市視聴覚教育研究協議会)
- リサイクル(座間図書館ボランティア友の会)
- 環境(相模川に生息する生物の展示ボランティア) AED設置のため中止

55

他のボランティアの活動状況(2)



- 図書館まつり
 - 第1回 2000年9月9日・10日
 - 第2回 2001年9月8日・9日
 - 第3回 2002年9月7日・8日
- 図書館まつりの特徴
 - 1) ボランティアによる実行委員会が企画・運営
 - 2) 友の会、お話し会、視聴覚、個人、関係サークルなど多くのボランティアが参加

56